



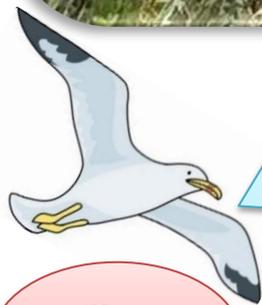
蘇る、蒲生の自然

蒲生干潟と海浜

11月号

蒲生干潟にも秋の訪れ

10月14日撮影



干潟の
北には

太平洋フェリーが仙台港へ入港しています。

撮影時刻は9月13日9時34分。

苫小牧港9月12日19:00発⇒仙台港13日10:00着のフェリーです。

苫小牧～仙台～名古屋1,330kmを結ぶ航路を、「いしかり」「きたかみ」「きそ」の3船で運航しています。

蒲生干潟のすぐ近く（北側）を就航していることがよく分かります。



仙台港



向洋海浜公園



彼方に干潟

蒲生干潟の秋模様



この時期（10月下旬）になると、ヨシは枯れています。海水に浸るハママツナも枯れてきました。ヨシ原周辺の緑のハママツナも間もなく枯れていくようです。どちらも枯れた状態で春を迎えます。



ハママツナは紅葉すると図鑑などには記載されています。蒲生干潟のハママツナは紅葉しなかったようです。緑の絨毯が黄土色に変色しました。

蒲生干潟の秋の景色を堪能してみましょ！





枯れだしたヨシと背後の多種の海浜植物



枯れた草の中に佇むハマニンニク

秋の海浜植物



紅色に枯れだしたオカヒジキ



枯れが早かったオニハマダイコン



ヨシ原

ヨシ原の背後の土手にセイタカアワダチソウ



ヨシ原の中にもセイタカアワダチソウ

秋を告げるセイタカアワダチソウは、北米原産の帰化植物です。ススキなどの在来種と競合して、河原や空き地に群生するそうです。かつての蒲生干潟では、見かけなかったと思います。今後の生育状況が気になります。



秋の訪れを告げる水鳥



●●ガンや●●カモ



●●ガンや●●カモ



●●シギ

秋の干潟に群れるカニ類



●●カニ



アシハラガニ



●●カニ

フナムシはいません!

秋の磯部の生き物

保温の効く場所で集団越冬?



●●貝



カキ

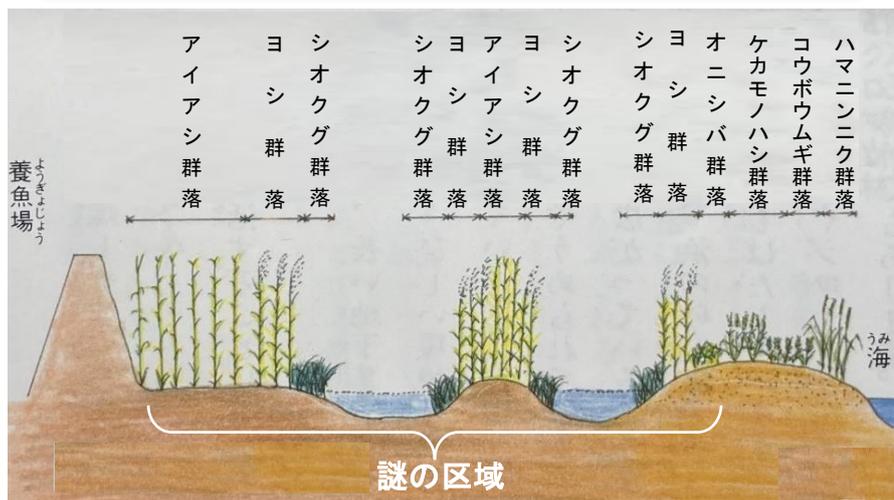


フジツボ

震災前の干潟の水際の海浜はアシ（ヨシ）等の群落地



ハママツナ群落地は、元々は、ヨシ等の群落地！



謎が詳しく解けたようです。津波によって干潟の土壌が変化して、ヨシ等が一時生えなくなりました。そこへまず、ハママツナが生えだして、近年になりヨシ等も生えだしてきました。何年後には、元の植生に戻るのではないのでしょうか。

水際の干潟全域にハママツナが群生

9月13日撮影



津波によって干潟の土壌が変化したところのようです。

日和山の北側にのみヨシ等が群生

日和山のすぐ北側の干潟

北端の干潟





植生遷移とは、ある一定の場所で、生物群集の構成が一つの方向に向かって移り変わっていく現象です。遷移の最終段階は極相 climax で、極相に到達すると遷移は停止し、生物群集は安定することになります。
この現象が震災後に蒲生海浜でも生じているのでしょうか。
そして、極相に達すると、海浜一面がヨシ原となるのでしょうか。

現在の状況が極相ではないのは間違いないと思いますが、昔のようにヨシ原が生い茂って安定した状態が今の蒲生にとって極相かどうかはわかりません。津波の影響で、土壌の成分もまったく同じではないでしょうし、生息する生き物や植物も変遷している最中です。

生態系の変化（動植物の種類の変化）がどのような形で落ち着いて行くのかを見守る上でも継続的な調査の意味があるように思います。現在ハママツナは大変広範囲に広がっています。かなり時間はかかるかと思いますが、見守りたいと思います。



蒲生のハママツナについては、満潮時に海水がかぶるエリアに分布しています。

広島県の太田川河口付近の資料の中に、土地が不安定なエリアにハママツナが自生しており、年を重ねて土地が安定していったらハママツナが減少し、ヨシが多くなったというものがありました。震災後の不安定な土地で、海水がかぶるエリアにハママツナが広がったと考えられます。

また、広島の場合と同じようになると仮定すれば、これからヨシ原が広がり、徐々にハママツナの分布エリアが減少することが考えられます。また、土地が安定していた震災前は、おそらくハママツナは少なかったことも考えられます。蒲生は今年の3月に工事が終了したばかりです。**土地が安定していくのはこれからです。**



津波によって、一時は復元不能といわれた蒲生干潟。ハママツナが生えてきたことで、安定した環境になろうとしている最中のようなようです。

ヨシの広がりだけでなく、他の海浜植物や干潟に生息する生き物、そして野鳥も継続観察していこうと思います。



令和3年10月2日(土)

余談：第3回みなとオアシス仙台港ウォーク

距離 10km 約3時間



- ⇒ なかの伝承の丘
- ⇒ 日和山
- ⇒ 中野小学校跡地之碑



仙台港開港 50 周年記念のウォーキングです。完歩を目指して 3 時間ほど歩きます。



コースは震災の津波の被害があったところです。途中、なかの伝承の丘と日和山に立ち寄ります。



● **なかの伝承の丘**では中野ふるさと YAMA 学校代表の S さんが、震災後の復興の様子を話されました。特に、下のモニュメントにはコアジサシの幼鳥を、上にはコアジサシの巣立ちを表していると聞いて、地域の方々の干渉に寄せる思いの深さに感動しました。



コアジサシの巣立ち



コアジサシの幼鳥

●日上山では、下の旧校舎の卒業生のTさんより、震災前の蒲生干潟についてのお話を聞くことができました。干潟の牡蠣を捕って食べていたそうです。仙台港が開港するまでは、干潟の北側には松原があり、白砂青松のきれいな海岸だったそうです。また震災前の干潟には、ハママツナは生えていなくて、一面アシ原だったことも伝えていただきました。



●夢メッセみやぎの向かいに「中野小学校跡地之碑」が設置されています。明治30年5月から仙台港が開校するまでの昭和46年3月まで、この地に最初の校舎がありました。学校の周りには田園地帯であったことがよく分かります。仙台港が開校してからは、東北の流通の中心地として発展してきました。その中心施設となっているのが夢メッセみやぎです。

「中野小学校跡地之碑」の除幕式では、平成10年度卒業生による和太鼓の演奏が披露されました。

地域の方々の学校に寄せる思いの大きさが伺えます。



津波の痕跡
でしょうか？

